

令和 8年 5月 20日

瀬戸内市議会議長  
小野田 光 様

瀬戸内市議会議員 広野 真智子

### 政務活動費研修報告書

政務活動費を使用して、次のとおり研修活動をしましたので、その結果を報告します。

期間	令和 8年 5月 18日 令和 8年 5月 19日
----	------------------------------

研修会名	令和 8年度市町村議会議員研修 自治体決算の基本と実践
開催場所	全国市町村国際文化研修所（滋賀県大津市唐崎二丁目13番1号）
研修目的・内容	5月18日 ・自治体決算の意義と審査のポイント ・意見交換会 5月19日 ・行政評価等を活用した決算審査 ・グループ討議
所感	1. 自治体決算の意義と審査のポイント 武庫川女子大学経営学部 教授 金崎 健太郎 氏  ●自治体決算の意義と役割 予算議案はとても大切だが、決算は終わったもの。議会で決算について何を議論すればよいのか。 ・民間企業と地方公共団体は全く仕組みが異なる。存在意義そのものが異なる。上下水道、市民病院等は黒字だと民間に任せれる事業。それが難しいので多くの自治体が抱えている。



民間企業→利益の追求。決算でどれだけ利益を出すかが大切。3月締めで、6月までに評価が出る。

地方公共団体→お金を使って仕事をする。どのように使うかが大切。予算で上がっていないと、お金を使う事ができない。

5月末締めで、9月以降評価が出る。

#### ●自治体決算

予算議案は修正ができるが、決算は不認定になっても特に何も起こらない。予算を付けて行ったことに、効果があったかどうか見極めるのは難しい。

#### ●決算を用いた財政診断

自治体はお金を使うのが仕事。黒字すぎたら、何に使うかを考えないといけない。収支比率が高いほど良いというわけではない。これを補正予算で調整していく。

##### ・実質単年度収支

黒字だとお金がどこかで増えている。赤字だと、表向きは黒字だが、基金等、どこかでお金が減っている。

##### ・経常収支比率

固定費がどれだけ締めているか。固定費が多いと、新しいことが出来にくくなる。

## 2. 行政評価等を活用した決算審査

京都大学公共政策大学院 名誉フェロー

京都産業大学法学部 客員教授 小西 敦 氏

#### ●行政評価等を議員としてどう活用するか

制度の基本的な講義の後、藤枝市議会決算常任委員会の事業評価書を参考にして、グループ討議を行う。

グループ討議のメンバーは、玉村町議会、海津市議会、扶桑町議会、西脇市議会と瀬戸内市議会。どこも町の規模が3万人～4万人という市町。決算委員会は特別委員会の所が多く、やはり年間通じてじっくりと議論ができる常任委員会の方がよいという意見が多かった。そして、議員と執行部が同じ資料を見て、合意形成を図っていく事の大切さと、次回の予算案に対しても、決算の結果をみて議員からも提案していける環境も大切だと学んだ。

・玉村町議会は決算審査後に、各委員会で次に予算に活かしてほしいという提言書をつくるとのこと。そこには一年間通しての委員会のまとめ（所管事務調査や視察）も含まれる。

#### 【まとめ】

この度の研修の参加者は92名。

決算は終わったことの確認と次への課題を見つけるという印象だった。

- ・ 予算で決めた事を、どのように実行したか。
- ・ 市民生活に効果はあったか。
- ・ 将来世代へ持続可能か。

等を検証するととても重要な事だと改めて感じた。

民間企業は利益を出すことが目的の一方、地方公共団体は市民サービスを持続することが目的という視点がとても勉強になった。

財政指標は「良い・悪い」を決めるというより、「将来このサービスを続けられるのか」を考えるためなのだと学んだ。

この度の研修で学んだ、専門用語をはじめ、基本的な決算に関する考え方等を今後の議会に活かしていきたい。